

第15回 青梅市公共交通協議会

サイクル＆バスライドについて

平成27年3月31日

1. サイクル＆バスライドの検討について

前回協議会で、市街地部の公共交通空白地域のバス利用確保のため、(2)(3)地区を対象にサイクル＆バスライドの提案を行ったが、対象地域の最寄駅として金子駅を考慮しなくてよいか、ご指摘をいただいたため再度検討を行った。

【サイクル＆バスライド】

バス停まで自転車で行き、バス停近くにある駐輪場に駐輪し、バスで目的地まで行く方法。自転車でバス停にアクセスできるようにすることで、徒歩によるバス停のサービス圏の拡大を図り、市街地部の公共交通空白地域の解消に寄与しようとするもの。

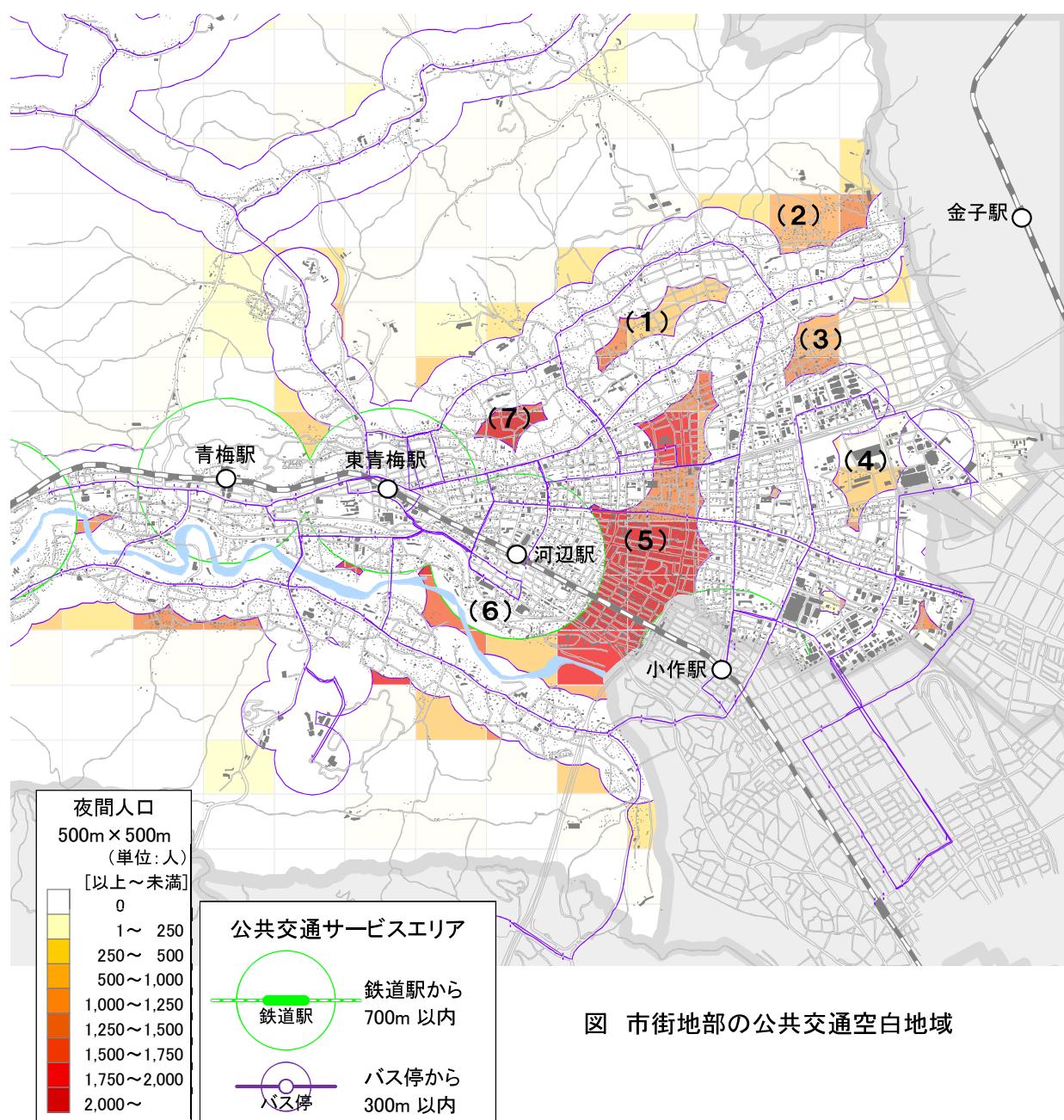


図 市街地部の公共交通空白地域

2. 首都圏のサイクル&バスライドの事例

- ・首都圏におけるサイクル&バスライドの事例として、以下の5市町について、目的駅からの距離、人口密度、バス路線網との関係について特性を整理した。
- ・主要な鉄道駅からの距離帯は、最も近くても2km以遠のバス停に設置されており、1箇所あたりの平均収容台数は約43台、料金はいずれも無料である。
- ・また、バス系統が分岐・合流するバス停に駐輪場が設置されている事例が、複数の都市でみられた。これは、複数系統の利用機会があることにより、利用可能な運行本数や行先の選択肢が増え、単一系統のバス停より利便性が高いためと考えられる。

表 サイクル&バスライド用バス停整備事例の概要

都市名	主なバス事業者	主な目的地	駐輪場 設置バ ス停数	駐輪 可能 台数	料金	鉄道駅からの 直線距離帯
厚木市	神奈川中央交通	本厚木駅	7	483	無料	2~8km 圏
茅ヶ崎市	神奈川中央交通	茅ヶ崎駅	6	147	無料	2~4km 圏
愛川町	神奈川中央交通	本厚木駅・厚木 バスターミナル	4	75	無料	8~16km 圏
三鷹市	みたかシティバス、小 田急バス	三鷹駅、仙川駅	4	202	無料	2~4km 圏
吉川市	ジャパンタローズ・茨城 急行自動車・飯島興 業・東武バスセントラル	吉川駅・北越谷 駅・南越谷駅・三 郷駅	9	不明	無料	3~6km 圏

3. 鉄道端末交通手段の分担率(通勤・定期券利用者)

端末交通手段分担率をみると、1.0km未満では徒歩が9割以上を占めているが、1.0～2.0kmでは、徒歩が低下してバス・路面電車や自転車の分担率が高くなり、更に3.0km以上では、自転車が低下してバス・路面電車の分担率が4割以上を占めている。

これより、鉄道駅までのバス利用割合が高くなるのは、駅から2km以遠の地域と考えられ、このようなバス利用を補完するためのサイクル&バスライドについても、駅から2km以遠の地域で行われていると考えられる。

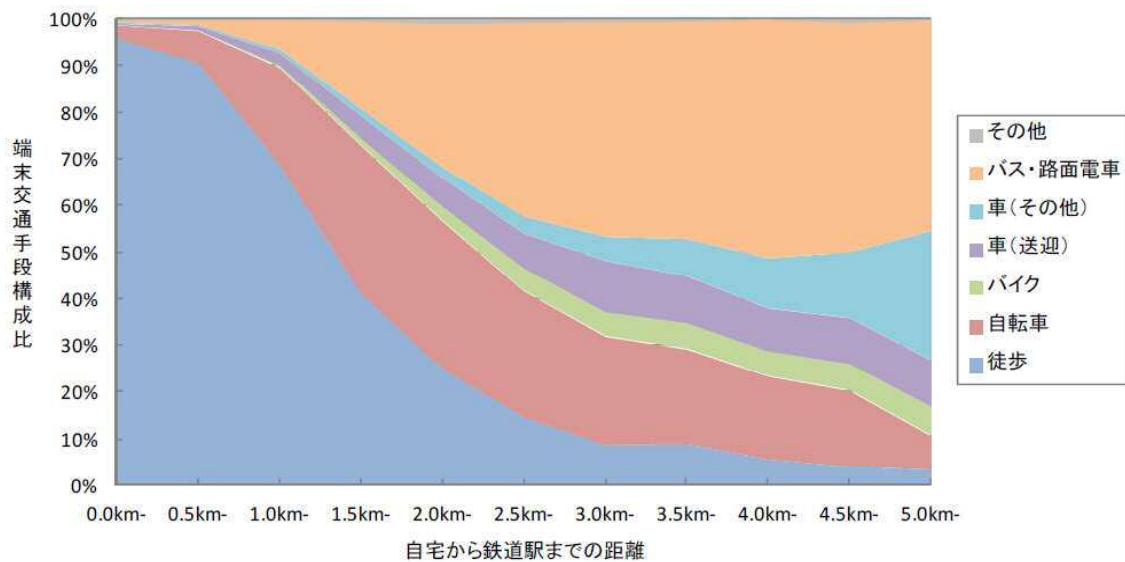


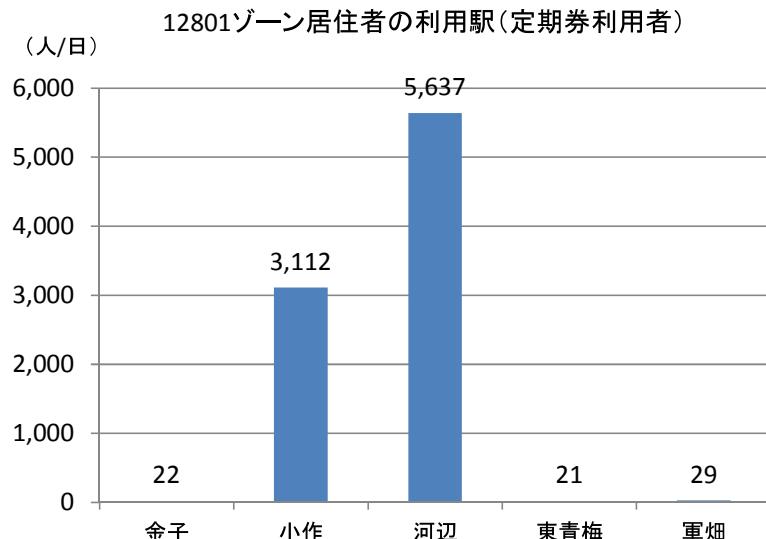
図 距離帯別自宅から鉄道駅までの交通手段分担率（通勤・定期券利用者、首都圏）

出典：第11回大都市交通センサス 平成24年度分析結果報告

4. 検討対象地域の利用駅

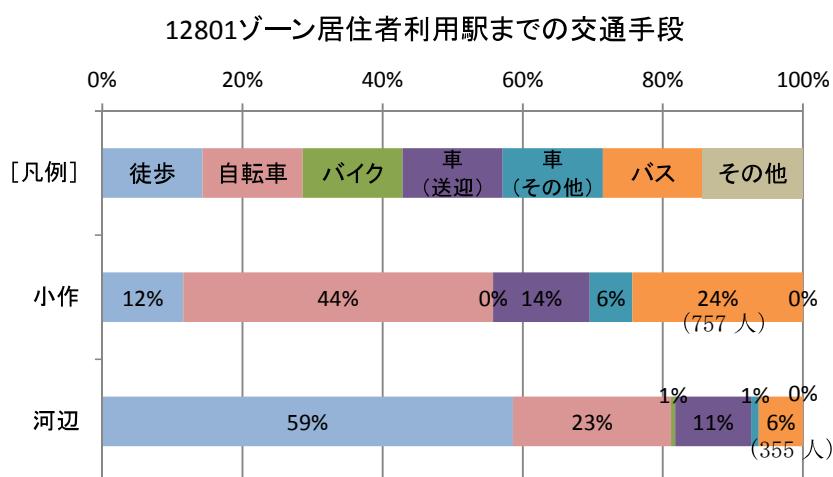
青梅市東部地域（12801ゾーン）居住者の利用駅は、河辺駅・小作駅が大半となっており、サービスレベルが違うことから、八高線の利用はほとんどみられない。

小作駅・河辺駅までの交通手段のうち、バス利用者はそれぞれ 24%（757人）、6%（355人）と一定のバス利用者がみられる。

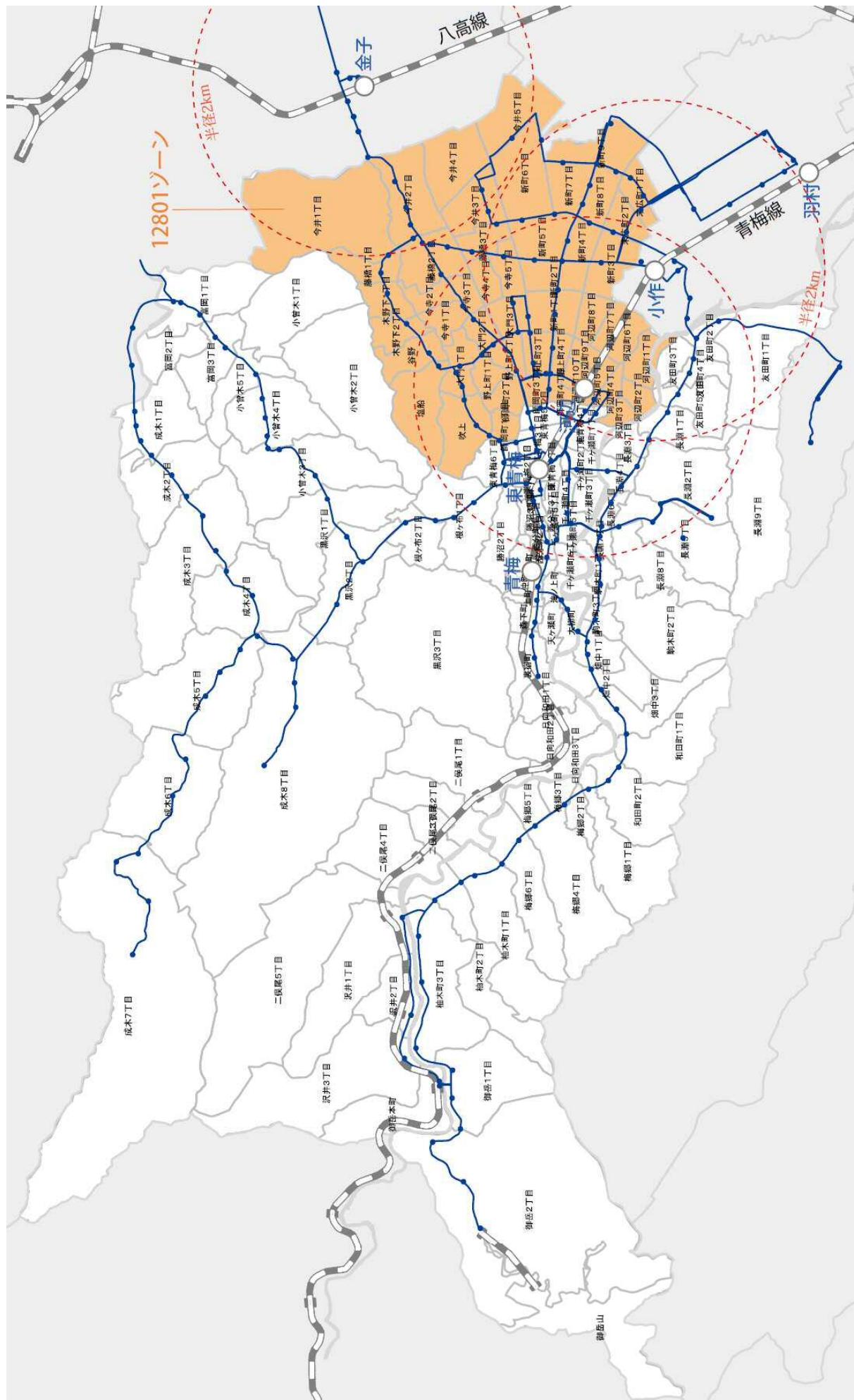


鉄道の運行本数（平日・上り）

	青梅線 [小作駅]	八高線 [金子駅]
朝（始発～10:00）	35	14
昼（10:00～17:00）	35	14
夜（17:00～終発）	41	16
合計	111	44



資料：第 11 回大都市交通センサス（実態調査実施：平成 22 年秋）



5. 事例から見たサイクル＆バスライドの適用条件

以上の事例整理より、サイクル＆バスライドの適用条件は以下のように考えられる。

【サイクル＆バスライドの適用条件】

① 当該地域からの利用が多い鉄道駅から 2km 以遠の地区

鉄道端末交通手段として、バスの利用割合が高まり、徒歩や自転車の利用割合が低下していく、鉄道駅から 2km 以遠の地区で考える。

② バス停から離れて居住者がいる地区

一般的にバス停徒歩圏は 300m 程度であり、自転車によるバス停までのアクセスは、それより離れた地区が対象となるため、バス停から 300m 以上離れても居住者がいる地区を対象として考える。

③ 複数バス系統が通るバス停や運行本数が多いバス停

バス利用者の利便性に配慮すると、できれば複数バス系統・行先の選択機会があるバス停や、運行本数が多いバス停を対象として考える。

6. 公共交通基本計画におけるサイクル＆バスライドの候補地

一方、青梅市公共交通基本計画（平成 24 年度）では、以下の 3箇所について、サイクル＆バスライドの候補地として提案している。

【検討方針】

- ・ 鉄道駅に近い地域では、直接自転車で鉄道駅まで向かうことができるため、鉄道駅から離れた地域を対象に検討する。
- ・ サイクル＆バスライドシステムのバス停は、最寄鉄道駅への迂回を小さくするため、公共交通空白地域と最寄鉄道駅を結ぶ方向において選定する。
- ・ 駐輪施設は既存ストックの活用を考え、バス停近くの公共施設の利用を検討する。

【サイクル＆バスライドの候補地(案)】

①「今井市民センター前」バス停(西武バス: 河辺駅北口・入間市駅)

- ・ 今井市民センター(図書館・体育館)との連携を図る。
- ・ 施設に付属する既存の駐輪場の活用が考えられるが、バス停から 60m離れているため、可能であればバス停付近のスペースや駐車場の活用も考えられる。

②「今井三丁目」バス停(西東京バス: 小作駅東口)

- ・ 今井三丁目運動広場との連携を図る。
- ・ 付属の駐輪施設がないことから、施設脇のスペースを活用するなどして、駐輪施設を設置する必要がある。

③「霞橋」バス停(都営バス: 河辺駅北口・青梅駅、西東京バス: 河辺駅北口・小作駅東口)

- ・ 大門第2運動広場との連携を図る。
- ・ 付属の駐輪施設がないことから、施設内に駐輪施設を設置する必要がある。

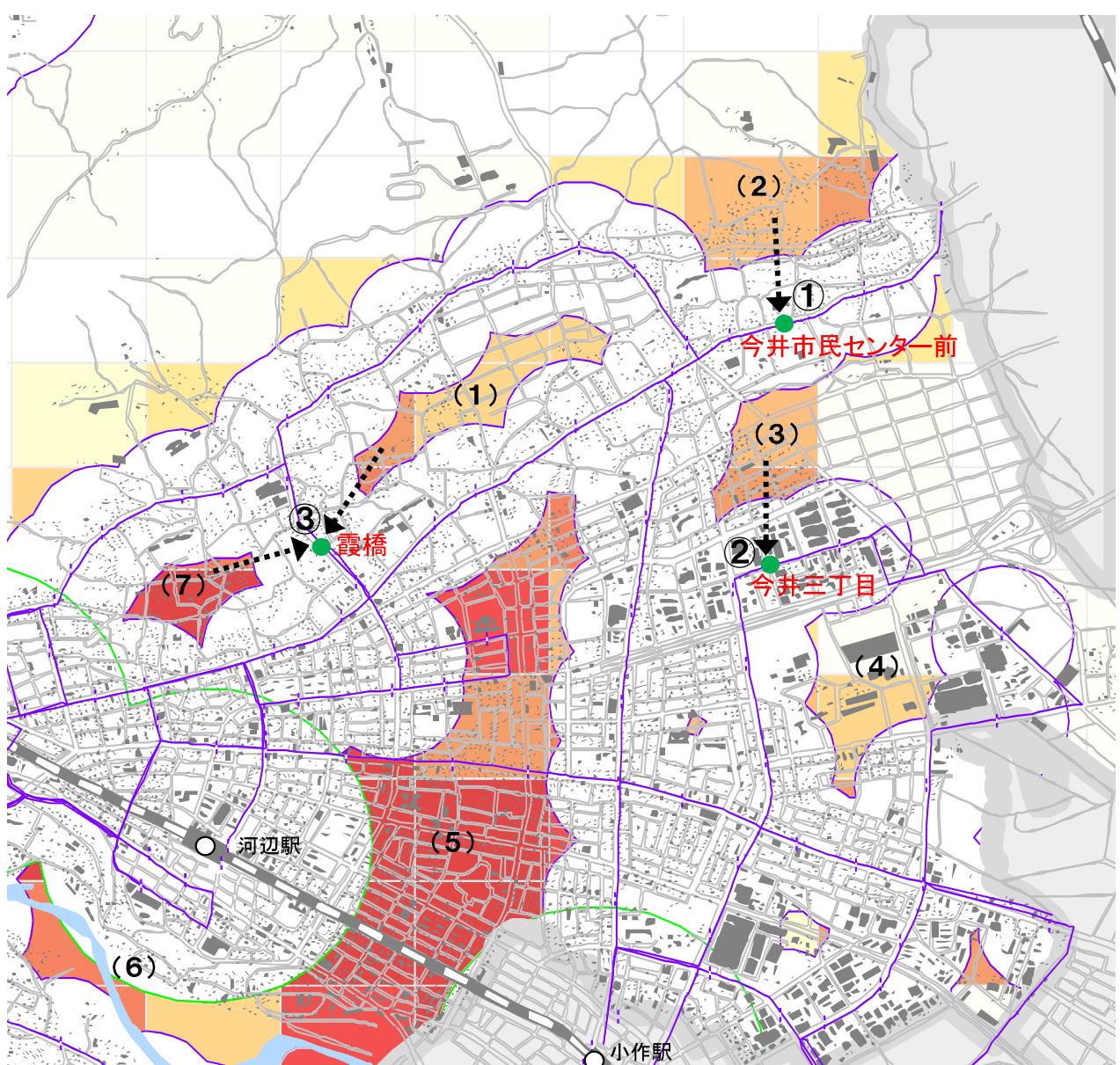
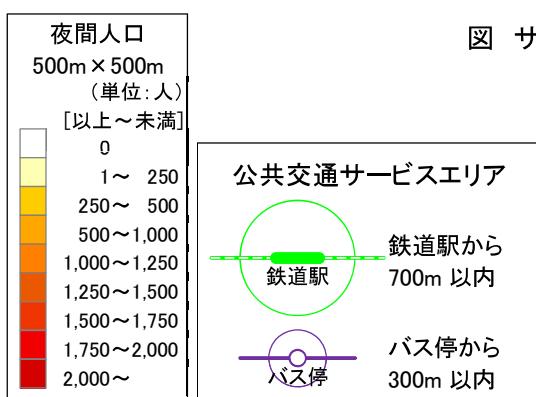


図 サイクル＆バスライドの候補地



7. サイクル＆バスライドの導入に向けた今後の検討

これらの候補地を先ほどの適用条件からみると、「③霞橋」については鉄道駅から2km 以内のエリアに含まれ、公共交通空白地域(1)が農用地で居住者がほとんどないことから、候補から除くこととする。

このため、サイクル＆バスライドについては、公共交通空白地域(2)(3)を対象に、「①今井市民センター前」「②今井三丁目」など以下の検討エリアにおいて、地域の意向を確認しながら検討を進めていく。

